



カペレン粒剤2.5

農林水産省登録 第17159号

1/2

平成27年4月22日現在

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	D B N を 含む農薬の 総使用回数
日本芝	—	一年生雑草 多年生広葉雑草	秋期雑草発生 前～発生始期	壤土～埴土	8～10kg/10a (1m ² 当り8～10g)	2回 以内	全面土壌 散布	
		ヒメクグ	ヒメクグ 生育初期		10～15kg/10a (1m ² 当り10～15g)			
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面等	一年生雑草	雑草発生前 ～発生始期	—	17～20kg/10a (1m ² 当り17～20g)	3回 以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に全面 土壌散布	3回 以内
		多年生広葉雑草 スギナ			20～40kg/10a (1m ² 当り20～40g)			





⚠ 効果・薬害等の注意



- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 本剤はイネ科雑草に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優占する場所での使用はさける。
- 本剤は雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草発生前～発生始期に時期を失しないように散布する。
- 多年生広葉雑草に対しては所定量を雑草の株元及びその周辺に散布する。
- ヒメクグ防除に使用する場合は、5～7月のヒメクグ生育初期に散布する。
- 本剤はまきむらによって効果が不均一になったり薬害の部分的発生が懸念されるので、特に均一散布に留意する。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので雨上がり等の土壌が湿った状態で使用することが望ましい。また、土壌が乾燥している場合は本剤の使用前または使用後に土壌表面が十分湿る程度に散水すると効果的である。
- 西洋芝には、薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
- 高温乾燥時の散布は薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
- 日本芝に使用する場合、以下のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさける。
 - ①芝張り1年以内及び十分に根づいていない日本芝。
 - ②極端な砂質土壌及び排水不良の場所。
 - ③移植後間もない樹木の周辺。
- 本剤は処理後地表面から薬剤が気化し気象条件によって滞留した場合、周辺の有用植物に薬害を生じるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさける。
- ハウス・温室等施設内及びその周辺では使用しない。また、ハウス・温室等施設の設置予定場所、そ菜（特にかぼちゃ）の栽培を予定している場所では使用をさける。**
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。
- 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることを十分注意して散布する。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - ①農作物の栽培地周辺で使用すると農作物に薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
 - ②水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意する。
 - ③散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受ける。

⚠ 安全使用上の注意



- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、小児や散布に関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮するとともに居住者、通行人、家畜などに被害を及ぼさないよう注意を払う。また、散布後にあっても、少なくともその当日は散布区域に立ち入らないように縄囲いや立札を立てるなど配慮する。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…通常の使用方法では問題ない。

保 管…密封し、直射日光をさけ、種子、苗、肥料及び他の農薬などと隔離し、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

